

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	22-005	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol-attributable deaths and years of potential life lost due to alcohol among veterans: Overall and between persons with minoritized and non-minoritized sexual orientations 退役軍人におけるアルコール関連死と損失生存可能年数：全体と性的マイノリティ・非マイノリティ		
執筆者		
Lynch KE, Livingston NA, Gatsby E, Shipherd JC, DuVall SL, Williams EC.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2022 Aug 1;237:109534. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2022.109534.		
キーワード		PMID
アルコール関連死、性的マイノリティ、損失生存可能年数、電子健康記録		35717789
要 旨		
<p>目的：不健康なアルコール使用は性的マイノリティの人々に偏っている。死亡に関連するアルコール使用が全国調査でモニターされている米国の一般人口とは異なり、薬物使用への対処が優先事項であるとされる性的マイノリティの人々における不健康なアルコール使用の影響については、よく知られていない。そのため、これらの影響について調査した。</p> <p>方法：退役軍人省に登録されている退役軍人の電子健康記録の簡易アルコール使用障害スクリーニングテスト（AUDIT-C）のデータと、2014-2018年の国民死亡指標の死因を用いて、性的マイノリティの退役軍人（102,085人）・非マイノリティの退役軍人（5,300,521人）において、年齢調整した10万人あたりのアルコール関連死亡（alcohol attributed deaths: AAD）と損失生存可能年数（years of potential life lost: YPLL）を、性・性的指向別に推定した。</p> <p>結果：年齢調整したAAD（21,861人）は、性的マイノリティ（486.5人/10万人）の方が性的非マイノリティ（309.7人/10万人）よりも多かった。YPLLは、性的マイノリティ（13772.8年/10万人）の方が性的非マイノリティ（7618.9年/10万人）よりも大きかった。また、AAD毎のYPLLは、女性（33.2年）の方が男性（18.7年）よりも大きかった。</p> <p>結論：退役軍人、特に性的マイノリティの退役軍人において、アルコール消費は多大な障害・死亡を引き起こす。全ての退役軍人保健局の患者に対するアルコール減量支援の強化と、性的マイノリティおよび女性の退役軍人に対するAAD、YPLLを改善するための標的アプローチの必要性が示唆された。</p>		